

旭川市合葬式施設検討会議 意見集骨子（案）

1 検討会議の趣旨

本検討会議は平成27年7月1日に旭川市長から本市にとってふさわしい合葬式施設の整備について意見を求められた。

本検討会議では、市民が安心して暮らせる環境づくりを進めていくために必要な施設としての合葬式施設の在り方等について、〇回にわたる意見交換を重ねたところであり、会議の中で施設に関して学んだことを全員で共有し、それぞれの希望等を出し合った。今回、検討会議としての役割を果たし、その内容を分かりやすく伝えたいとの思いから、施設に対する希望を意見集という形で取りまとめた。

2 現状と課題

市から現状認識として示された項目、内容等について、市民アンケート結果や地域まちづくり推進協議会、まちづくり対話集会での意見交換の結果報告を踏まえ意見交換した結果、当初示された現状や課題は、合葬式施設の整備を検討するに当たりの確な認識であると考えます。

課題については、次のとおりである。

○ 課題

- ・ 少子高齢化、核家族化等の進行により、墓の承継について不安を抱える市民が増えてきている。
- ・ 家ごとの墓を守っていくことだけでなく、子孫に墓の管理のための苦勞をさせたくない等市民の価値観が多様化してきている。
- ・ 本市においても高齢化に伴い死亡者数が増加することが予想され、様々な形態の墓の需要の増加への対策が求められる。
- ・ 市営墓地における（墓が承継されないことによる）無縁化への対応が急務である。
- ・ 合葬式施設の整備を望む市民ニーズの高まりへの対応が急務である。

○ 市民ニーズ

合葬式施設の整備への市民ニーズは高く、承継の不安等の意識や、合葬式施設に望む要素などについて把握できた。

【課題】

- ・ お墓や納骨堂を持っていると回答した方で、その使用权の承継に不安がある方は56パーセントであった。
- ・ お墓や納骨堂を持っていない方で今後、使用权を引き継ぐことになったとき、承継に不安がある方は75パーセントであった。

- ・ 合葬式施設が必要だと思ふ理由の上位は、次のとおりであった。
「子供や孫などに負担をかけたくないと思ふから」
「自分の家のお墓が将来的に引き継がれていくことに不安があるから」
- ・ お墓や納骨堂を持っていないと回答した方で、合葬式施設の使用を考えている方は25パーセントであり、お墓や納骨堂の使用を考えている方より多かつた。
- ・ 共同利用できる合葬式施設が本市に必要だと思ふ方は72パーセントであつた。
- ・ 本市に合葬式施設があれば利用したいと思ふ方は、42パーセントであつた。

【合葬式施設に望む要素】

- ・ 合葬式施設に求める要素の上位は、次のとおりであつた。
「使用料の金額が安いこと」
「施設等の管理及び整備状態が常に良好な状態に保たれること」
- ・ 妥当だと考える使用料について、1万円以内が34パーセント、5万円以内が40パーセントであつた。

3 合葬式施設の必要性

超高齢社会に関する課題への対応や施設を望む市民ニーズが増えている中においては、市民生活の安心のため早期解決を図るべきであるとの強い思いを持つた。そして、その実現のためには合葬式施設の早期整備が望まれると考へた。

4 合葬式施設の方向性

合葬式施設の方向性であるが、市民のお墓としての合葬式施設であることや、将来に負担をかけない施設及び管理方法が実現できる施設としての整備が重要であると考えた。

求めたい施設整備のキーワードは、次のとおりである。

4-1 “市民のお墓”

“市民のお墓”としてふさわしい施設形態、管理。

- ・ 宗教的な中立
- ・ 市有施設としての公共性
- ・ 民間施設との役割の整理

4-2 地域の特徴を活かした施設

- ・ 地域の特徴を活かした施設。
- ・ 明るいイメージで市民が気軽に集うことができる施設。

4-3 将来に負担をかけない施設及び管理方法等

- ・ 将来に過度な負担がかからない施設やその管理方法。

5 課題対応と方向性を踏まえた施設

5-1 早期の整備が可能な設置場所

○ 法律等の基準のクリア

合葬式施設は「旭川市墓地，埋葬等に関する法律施行条例」等に規定されている墓地等の施設であるため，それらの設置基準をクリアする場所を確保することや，付近住民への説明及び理解・同意が必要とのことであり，早期整備に当たり，これらの条件を満たす場所は，「市営墓地」及び「旭川聖苑」である。

○ 旭川らしさ

- ・ 明るいイメージで市民が気軽に集うことができるために一定程度の広さの土地が確保できることが必要である。
- ・ 大雪山などの市民が親しむ自然等の周囲の景観についても優れていることが必要である。

以上のことから，市営墓地及び旭川聖苑の敷地内で整備可能な面積や周囲の状況等を踏まえた中で意見交換した結果，早期整備が可能な場所として，現時点で最も優れた候補地は旭川聖苑であると考えた。

5-2 施設形態

旭川聖苑で整備する場合の施設形態については次のことを考えた。

- ・ 埋蔵可能数については，他都市の先進事例を参考に旭川市に適切な数字とすること。
- ・ 旭川らしさが感じられるような草木など，施設全体のデザインに配慮し，かつ，周囲の景観と調和する施設が望ましい。
- ・ 市民のよりどころとなり，心がやすまる“つくり”として，簡素だがシンボル性が高い施設であることが望ましい。
- ・ 施設全体として明るいイメージで人が集うことができるよう公園的な要素を取り入れた施設を検討してほしい。
- ・ “市民のお墓”のこの施設に眠る人たちが旭川と関わり，生きた証として訪れた人が容易に確認できる方法についても検討してほしい。
- ・ 今回整備する施設は，いわゆる無縁墓とは目的が異なるものである。

6 その他の意見

会議において出された意見の中で合葬式施設の早期整備に当たっての具体像ではないが，関連する内容として留意が必要と思われる意見を付記する。

- ・ 将来的な需要増等に対応するときは，市内複数箇所に整備することについても検討する必要がある。
- ・ 合葬式施設を整備し，ニーズに応じた選択肢を広げることにより，例えば既存の市営墓地を使用したい人が使用しやすくなるよう，総合的な視点から“お墓”の維持管理を考える必要がある。